

大学生訪韓団（第1～2団）派遣事業の記録

1. プログラム概要

【目的】日本全国から選抜された大学生たちを韓国に派遣し、各種視察、大学訪問等を通じた同世代との交流、講義聴講等を通じて、韓国の社会や文化に対する理解を深め、日本の魅力を広く積極的に発信することにより、今後の日韓間における相互理解の促進や信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】プレプログラム（オンラインによる事前学習） 日本の大学生等 50 名
派遣プログラム 日本の大学生等 50 名

【訪問地】プレプログラム 京畿道城南市 50 名
派遣プログラム ソウル特別市、京畿道城南市、京畿道高陽市、京畿道坡州市、
慶尚北道慶州市、釜山広域市 50 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

3月2日（土） オリエンテーション（プログラム説明）、講義

■ 派遣プログラム:

3月10日（日） 仁川国際空港より入国、オリエンテーション

3月11日（月） 【講義聴講】「日韓関係と在外公館の役割」、【表敬】韓国国立国際教育院、
【大学訪問・交流】東国大学校、
【講義】「経済的側面から見た日韓関係の過去、現在そして未来」

3月12日（火） 【視察】現代モーターススタジオ高陽、【視察】大韓民国歴史博物館、
【視察】世界遺産 昌徳宮、【文化体験】韓服、【視察】南山ソウルタワー

3月13日（水） 【視察】非武装地帯（DMZ）、【学校訪問・交流】KAC 韓国芸術院

3月14日（木） 慶尚北道慶州市へ移動、【視察】世界遺産 仏国寺・石窟庵、東宮と月池、
釜山広域市へ移動

3月15日（金） 【視察】松島海上ケーブルカー、【企業訪問】大鮮酒造株式会社、成果報告会

3月16日（土） 金海国際空港より出国

2. 記録写真



2024年3月11日【講義聴講】「日韓関係と在外公館の役割」



2024年3月11日【大学訪問・交流】東国大学校



2024年3月12日【視察】現代モータースタジオ高陽



2024年3月12日【視察】大韓民国歴史博物館



2024年3月13日【視察】非武装地帯（DMZ）



2024年3月14日【視察】世界遺産 仏国寺



2024 年 3 月 15 日 【企業訪問】大鮮酒造株式会社



2024 年 3 月 15 日 成果報告会

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 大学生

東国大学や KAC 韓国芸術院での学生との交流は同世代の韓国人と関わる機会の少ない自分にとってとても良い経験だった。また、DMZ や歴史博物館への訪問は遠い話のように感じていた戦争が韓国人は今も身近なことであると分かり、戦争や平和について考えていかなければならないと感じた。

◆ 日本 大学生

「相手の言語で話すことは相手の目線に合わせること」。今回のプログラムで最も心に残った言葉である。目線を合わせて相手を理解しようとする、相手の立場で物事を考えることは、日常から国同士の関係まで全ての場面で必要なことだと改めて考えさせられた。

◆ 日本 大学生

現地大学生との交流が非常に良かった。日本が好きではない韓国人は多いと思っていたが、日本語を熱心に勉強している学生や日本に憧れを持っている同世代の学生達がたくさんいることを知り凄くうれしかったし安心した。

◆ 日本 大学生

東国大学における講義が印象的だった。韓国と日本の密接な経済関係について、データやアンケート調査を通じた韓国側の視点を知ることができて新鮮だった。また質疑応答において、少子化対策についての教授の意見を伺うことができ有意義な時間だった。

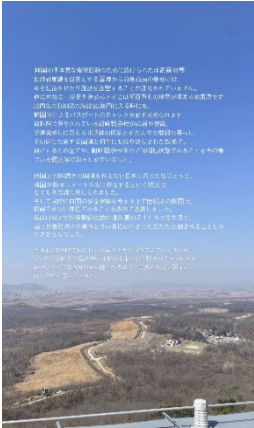
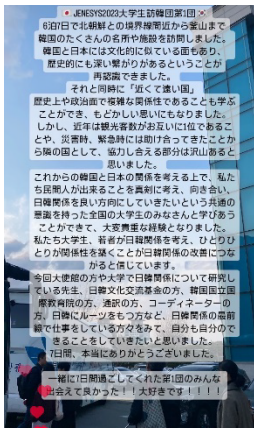
◆ 日本 大学生

少子高齢化や非正規雇用増加の問題等を現地学生との交流を通じて理解を深めることができた。お互いが直面する様々な社会課題に対処するためには特に青少年交流が重要であり、日韓が連携して解決策を模索することが不可欠だと感じた。

◆ 韓国側受け入れ機関担当者

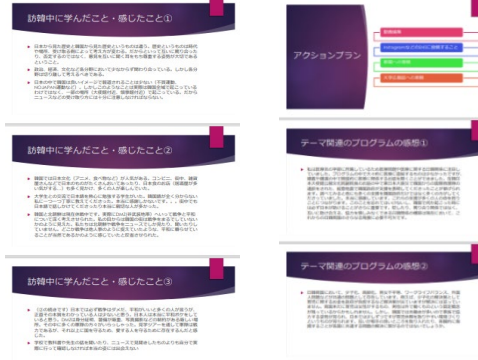
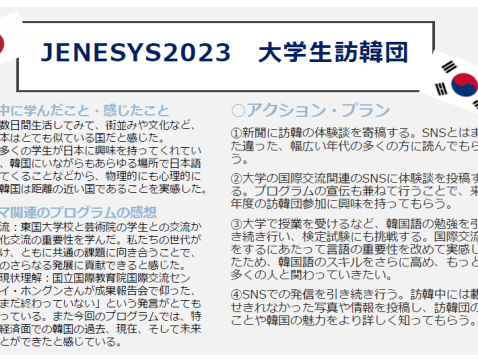
◆ 学校訪問先関係者

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2024 年 3 月 14 日 (Instagram) 資料館に保存されている朝鮮戦争時の武器や物資、望遠鏡越しに見える北朝鮮の民家と人々の暮らし、その間に位置する国境と何重にも張り巡らされた鉄格子。目にするもの全てが未だに「休戦」状態であることをその場にいる観光客に知らしめていました。他国と陸続きの国境がない日本で育った私にとって、隣国が数キロメートル先に存在するという状況はとても不思議に感じられました。	2024 年 3 月 16 日 (Instagram) 韓国と日本は文化的に似ている面もあり、歴史的にも深い繋がりがあるということが再認識できました。それと同時に「近くて遠い国」、歴史や政治面で複雑な関係性であることも学ぶことができ、もどかしい思いにもなりました。これからの韓国と日本の関係を考える上で、私たち民間人が出来ることを真剣に考え、向き合い、日韓関係を良い方向にしていきたいという共通の意識を持った全国の大学生のみなさんと学びあうことができて、大変貴重な経験となりました。私たち大学生、若者が日韓関係を考え、ひとりひとりが関係性を築くことが日韓関係の改善につながると信じています。

6. 報告会での訪韓成果とアクション・プラン発表

(訪問地：ソウル特別市、京畿道城南市、京畿道高陽市、京畿道坡州市、慶尚北道慶州市、釜山広域市)

	
【訪韓中の学び】 日本から見た歴史と韓国から見た歴史は違う。歴	【訪韓中の学び】 韓国で数日間生活してみて、街並みや文化な

史は時代や場所、受け取る側によって考え方が変わる。だからといってお互いに否定するのではなく、互いの意見に聞く耳を持ち、尊重する姿勢が大切であること。

【テーマに関する訪韓中の発表】

日韓両国において、少子高齢化、ジェンダー、ワークライフバランスなどの問題が共通の課題として存在している。例えば少子化の解決策として育児に関するお金を政府が負担するなど政策が出ているが、解決には至っていないが、それは両国ともに未だに育児は女性がして男性は外で働くものという固定概念が残っているからかもしれない。しかし、韓国では共働きが家族で協力するという姿勢が見られ、日本では少しずつ育児休暇を取りやすい環境作りが進んでいる。互いが相手の良いところを取り入れる等、客観的に指摘することが共通の問題の解決につながるのではないかな。

【アクション・プラン】

- ・訪韓中に撮影した動画を編集してアップロードする。
- ・Instagramでの投稿を引き続き行う。
- ・新聞と大学の広報誌に訪韓団での経験を寄稿する。

ど、韓国と日本はとても似ている国だと感じた。また、韓国の多くの学生が日本に興味を持っていることや、韓国にいながらもあらゆる場所で日本語が聞こえてくることなどから、物理的にも心理的にも日本と韓国は距離の近い国であることを実感した。

【テーマに関する訪韓中の発表】

・日韓交流については、東国大学校と芸術院の学生との交流を通し、文化交流の重要性を学んだ。私たちの世代が交流し続け、ともに共通の課題に向き合うことで、日韓関係のさらなる発展に貢献できると感じた。

・韓国の現状理解については、国立国際教育院国際交流センター長のイ・ホンゲンさんが成果報告会でおっしゃっていた「戦争はまだ終わっていない」という発言がとても印象に残っている。また今回のプログラムでは、特に歴史や経済面での韓国の過去、現在、そして未来を知ることができたと感じている。

【アクション・プラン】

- ・新聞に訪韓の体験談を寄稿し、SNSとはまた違った、幅広い年代の多くの方に読んでもらう。
- ・大学の国際交流関連のSNSに体験談を投稿し、プログラムの宣伝も兼ねて行うことで、来年度の訪韓団参加に興味を持ってもらう。
- ・大学で授業を受けるなど、韓国語の勉強を引き続き行い、検定試験にも挑戦する。国際交流をするにあたって言語の重要性を改めて実感したため、韓国語のスキルをさらに高め、もっと多くの人と関わっていききたい。
- ・SNSでの発信を引き続き行う。訪韓中には載せきれなかった写真や情報を投稿し、訪韓団のことや韓国の魅力をより詳しく知ってもらう。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金